

実施クラス	実施日	実施保育者名
4.5 歳児 ぶどう・めろん 組	9 月 29 日 (月)	宮下・清水

● 実施計画

活動テーマ		環境設定・準備物
「えいごってどこの言葉？」		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>日常の遊びや会話の中で、地球儀や図鑑に触れ、世界の国や言葉に自然な関心を示している。普段から身近にあるアルファベットや英単語に興味をもち「これは何て読むの？」と保育者に質問する姿が見られる。</p> <p>こうした日頃の関心を受け「えいごってどこの言葉？」という探究テーマを設定した。</p>		
活動スケジュール		環境設定・準備物
時間	内容	
10:30	<p>【探究活動①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国旗カードを使って英語が使われている国を調べる。 ・英語圏の国や言葉について関心を持つ。(カードで探す) ・英語の言葉を知っているものを出し合ってみる。 	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国旗カード・図鑑 ・みんなでカードを探せるスペースを確保する ・タブレット・モニターのコードをセットしておく ・子どもが自由に思ったことを言えるよう、雰囲気作りをする ・英語や探究テーマに関するものを表示しておき、興味を引き出す <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパッと英語タブレット ・モニター ・世界の旗カードや世界地図図鑑 ・アルファベット表 ・英語の絵本
10:50	<p>【英語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「The Alphabet Song」「The Morning Song」を歌う。 ・キャラクター紹介や簡単なフレーズを声に出す。 ・パパッと英語タブレットで英語の音やリズムに触れる。 	
11:00	<p>【探究活動②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でインタビューごっこ遊び。 ・「Hello.」「Goodbye.」などの挨拶をゲーム遊びやごっこ遊びに取り入れる。 ・クラス内で身近なアルファベット探し。 ・みんなで「こんにちは」「Hello」「你好」など、いくつかの国の挨拶を試す。 	
11:20	今日学んだ言葉や楽しかったことを話す時間。	
11:30	終了	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国旗カードを使ってどんな国があるかを調べ、知っている国や知らない国について話し合い探究心を育んだ。 ・英語でのあいさつを話してみても、日本語との違いに気づいた子どもたちの興味をさらに広げた。 ・世界の国旗カードを探す活動を取り入れたことで、国旗の関心とともに、日本以外の国への関心が深まった。 ・モニターの歌やリズムを通じて英語に自然に親しみ、みんなで英語表現に触れる場面があった。 ・普段の生活と照らし合わせて英語を取り入れる姿もあり、遊びと探究が重なっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国旗カードを見て「この国はどんな言葉？」と興味を持ち、ipadを使って調べる姿があった。 ・英語にあるアルファベットを見つけ、「これ知ってる！」と喜びながら文字への関心を深めた。 ・英語のあいさつや英語の歌を口ずさみ、リズムや発音を楽しむ様子が見られた。 ・モニターから流れてくるネイティブな英語に、楽しみながら言葉を繰り返していた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会でも国旗を作ったが、こうして言葉にも触れていくと子どもたちの探究心が高まった。 ・言葉や挨拶の違いから異文化への興味がわいたようだった。 ・モニターから流れてくる音やリズムを楽しみながら主体的に学び、楽しみながら触れることができていた。 ・こうしたきっかけから探求心が広がるので、関心を広げる支援が大切だと実感した。 ・次回は英語をさらに掘り下げて、子どもの興味や関心を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国旗カード探しから興味関心から楽しみに発展し、保育者の声掛けや関わりによってより探求心が深まっている様子が見られました。 ・保育者は、子ども一人一人の疑問や発見に常に向き合っており、子どもの声を拾っていくことを大切に、探究活動を深めていってもらうことがこの活動のねらいでもあります。子どもたちの探究の幅をさらに広げるとともに、どうしたらこの活動が子ども主体に深まるのかを職員間で検討していくことが望まれます。 ・この活動を通して、他の活動にも子どもたちの主体的な学びを深める土台となり、園全体が子ども主体の保育を共有できるようになっていってほしいと思います。